

第4回愛媛県県立学校振興計画検討委員会地域協議会の開催結果（概要）

- 1 日程等 令和3年9月27日（月）～10月12日（火） 県内8地区で開催
※新居浜地区は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催
- 2 出席者等 ○地域協議会会員 157人（代理出席を含む）
○教育委員会事務局 8人（副教育長、指導部長、魅力化推進監 他）
○傍聴者 6人
○マスコミ等 NHK松山
- 3 次第 (1) 開会（指導部長挨拶、スケジュール説明）
(2) 議事（中間報告について、第3回地域協議会報告、振興計画策定のための検討、意見交換等）
(3) 閉会

4 開催結果

○ 会員による意見交換（主な発言内容）

四国中央	○市内に普通科が3校あり、それぞれに特色を持たせることが重要。 ○総合学科や専門学科の設置など、生徒の選択肢を増やしてほしい。 ○子どもたちの切磋琢磨は必要。統合の場合は、早い段階から情報提供を。 ○進路実現のためには、ある程度の規模の大きい学校が必要。
新居浜	○ <u>部活動で市外へ流出している生徒が増加。市内にスポーツ学科の設置を希望。</u> ○工業関係は人材が不足しており、定員を増やしてもよいのではないかと。 ○進学後の進路変更に対応するため、 <u>総合学科や産業科学高校があるとよい。</u> ○異なる職業学科の統合は、他県でも成功事例があり魅力的である。
西条	○県立高校等の現状の検証が必要。統合を進める日程がタイトである。 ○医師不足解消など、地域医療に関わる人材を育成する体制づくりを。 ○生徒は多くの同級生と過ごしたい気持ちがあり、一定規模の学校は必要。 ○生徒の希望進路は普通科が多いので、各地域に普通科を残してほしい。
今治 越智	○ <u>市町においては、様々な施策を講じて県立高校をバックアップしている。県においても更なる支援を。</u> ○陸地部の定員を減らし、生徒が小規模校に進むかどうか検証しては。 ○地域に中高一貫教育が本当に必要かどうか、再考の時。 ○統廃合すると通学圏が広がる。通学費用補助などの対策を。 ○高校進学を諦める生徒が出ないように、 <u>現行の離島の特例措置の適用を。</u>
松山 伊予 上浮穴	○ <u>昼間定時制や通信制を充実させることで、多様な生徒に対応でき、県立学校の魅力化になる。</u> ○県立高校においても、不登校生徒を受け入れる体制の充実を。 ○ <u>芸術系学科等の新学科を検討する際には、生徒のニーズを正確に捉えることが重要。</u> ○地域に根差した学校をどれだけ大切にするかが重要。 ○小学生が将来の選択肢を考えられるよう、小中高の連携、交流を進めてほしい。 ○私立高校に進む生徒が多い。費用面、進学へのフォロー面で、私立がよいとの声を聞く。
大洲 喜多	○人材育成は重要であり、外国の事例も参考にしてほしい。 ○小さな学校で学びたいという生徒のニーズに合った学校を。 ○小規模校であっても、やり方によっては優れた人材を育成できるのでは。 ○学科にとらわれない、多様性と、夢のある学科の設置を。
八西 西予	○ <u>市立中学と県立高校による一貫教育の可能性について研究している。</u> ○統合すれば通学距離が長くなり、保護者負担が増える。 ○生徒にとって職業学科の選択肢があるのはよい。 ○条件を満たせば、分校を本校に戻すことができる制度の検討を。
宇和島 南宇和	○ <u>宇南中等の在り方は、市立中学に与える影響を踏まえて検討してほしい。</u> ○愛南町は農業と水産が基盤。製造、経営、販売が総合的に学べる学科を。 ○今後の生徒数の減少について、丁寧に見ていく必要があるのではないかと。 ○地域に多様な学科があれば、生徒の流出を防げるのではないかと。 ○普通科校が1校となった場合には、多様な生徒への対応が難しくなるのでは。

（参考）今後の予定

- 11月 第5回計画検討委員会の開催
11月～ 第5回地域協議会の開催（県内8地区）